

## 編集後記

今年も、滞り無く会報を発行でき、各会報委員の方には、本当に感謝いたします。実務の合間に色々手配するのは本当に大変なことだと思います。それにもまして、原稿を執筆するのは、さらに時間的、肉体的、精神的労力を使い、期限内に書き上げるのは、大変な作業であろうと思います。忙しい中で僅かな時間を割いて書いておられると思いますが、出来上がりの原稿を見ると、何れも流石であると感心せずにはおられません。執筆して頂きました諸先生方には、お忙しい中、本当にありがとうございました。また、各会報委員の方、大変お疲れさまでした。

(須藤 雄一)

☆ ☆ ☆

本年度、日弁の会報委員を担当させて戴いて感じた3つの「縁」について述べさせて戴き編集後記と致します。

1. 昨年の本会報誌「日弁」に原稿を書かせて戴いたことも1つの「縁」だと思います。

2. また、昨年度本委員会の副委員長の先生から本委員会の委員を薦めて戴きながら一度お断りし、その後病むにやまれない事情(?)でお引き受けした経緯があり、これも1つの「縁」だと思います。

3. 本委員会委員長の須藤先生のお名前は、「雄一」先生とおっしゃいますが、私の名前は逆の「一雄」であり、これも何かの「縁」かなと思います。

以上、私的なことをつらつらと書き連ねましたがご多忙のなか原稿を御執筆戴きました先生方に厚くお礼を申し上げます。

今後、会報誌「日弁」の原稿執筆の御依頼を受けた先生方は、これも1つの「縁」と考えて戴き、原稿の御執筆をお引き受け戴ければと思います。

(青谷 一雄)

☆ ☆ ☆

前年度と同様、催促があって慌ててこの編集後記を書いています。編集委員の最大の仕事は、執筆を依頼した方への催促だと思いますが、またもや自分

自身が催促される羽目になってしまいました。

我々の仕事は、明細書の原稿については大体がその納期が定められ、中間処理についても当然期限が定められています。そして大げさな言い方ですが(あるいは私だけの意識かも知れませんが)、これらの期限に囲まれて毎日暮らしています。期限に追われるあまり、夢の中までそのような状況が登場した方も多くいるのではないのでしょうか。

振り返ると私は小学生の頃から夏休みの宿題は、毎年殆ど前日に、それこそ半泣き状態で取り掛かっていました。そのためいつかは宿題、課題のない環境に包まれて穏やかに暮らすことが、憧れでした。そうなればきっと顔つきも柔和になり、また些細な事に拘らない「大人」になるのではないかと、そんな風に考えていました。

しかしながら自分が選んだ道は、ある意味毎日が課題の連続であり、しかも用語1つをとっていても細かい吟味が必要となるなど、実際はそれと対極に位置するものでした。これほど無残に打ち砕かれた夢を、他に私は知りません。

このような出自を持つ者から原稿執筆の依頼や催促を受けた方々にとっては、ある意味災難だったかも知れませんが、快く引き受けて頂いた皆様の「心意気」に、いつもながら感謝の言葉もありません。どうもありがとうございました。

(金本 哲男)

☆ ☆ ☆

日本弁理士会等の要職を勤められている先生方を始め多くの先生方に原稿の執筆をお願い致しましたが、快く執筆を引き受けて頂きましてありがとうございます。会員だよりには自由なタイトルで書いて頂いて結構ですとお願い致し、かえって何を書いたら良いか迷われたのではないかと思いますでしたが、先生方には会員だよりに相応しい原稿を執筆して頂きまして感謝致しております。

執筆をお願い致しました先生方の原稿を読ませて頂き、先生方が執筆すべき問題意識や話題をお持ちであることに、日々の業務に明け暮れ視野の狭くなった当方には、忸怩たる思いが致しました。この度、編集作業の一部を手伝わせて頂きまして当方に

も良い刺激を受けることができました。執筆をして頂きました先生方にこの欄をお借りしてお礼を申し上げます。

(小塚 善高)

☆ ☆ ☆

僕はPA会の会員ですが、同じ職場に南甲弁理士クラブの会員がいる縁で、今年の夏に南甲弁理士クラブの納涼会に参加した。そしたら、そこで行われたビンゴゲームで素晴らしい景品をたくさん頂き、今なお恐縮している次第です。会誌委員とは全く無関係ですが、いつの日かお礼を言いたかったので、この場をかりて言わせてもらいます。感謝！感謝！

最後になりましたが、お忙しい中にもかかわらず執筆依頼を快くお引受けくださった先生方、誠にありがとうございました。また会誌委員会の皆様方にかれましては、お疲れ様でした。またどこかでお会いた時はよろしくお願ひします。

(萩原 康司)

☆ ☆ ☆

昨年11月に弁理士登録、年明けに春秋会に入会したばかりという新参者の私にも拘らず、会報委員を務めさせて頂く幸い？ を与えてくださった推薦者の先生には感謝しております。原稿をご依頼した先生方、不慣れ故にご迷惑をお掛けしたと存じますが、ご多忙のなか原稿をご執筆頂き誠にありがとうございました。また、須藤委員長を始めとする会報委員の先生方には、大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

(井川 靖之)

☆ ☆ ☆

昨年に引き続き、会報委員をやらせて頂きました。2年目だから慣れたかな？ と思ったのは大間違いで、執筆をしてくださる先生方に当初お知らせしていた原稿の締め切りをすっかり忘れ、知らない間に過ぎていくのに気付いた時には、本当にびっくりしました。それにもかかわらず、執筆者の先生方のご協力により、最終締め切りまでには、きちんと原稿

が集まりました。お忙しい中、快く原稿を書いてくださった先生方、本当にありがとうございました！

余談ですが、これに限らず、とにかく今年は忘れ物(物忘れ?)と落とし物ばかりしていた1年でした。旅行中に買った免税品やお土産が入ったバッグを帰りの電車で置き忘れ、電車の網棚に荷物を載せたまま忘れて降り、定期券を落とし(この出来事をきっかけにスイカに変えました)、銀行のカードをなくし、お気に入りのカーデガンを落とし、その他にもなくしたものは数えきれません。来年こそは、忘れ物・落とし物をしないよう気をつけようと、心に誓っております。

(岡田 英子)

☆ ☆ ☆

原稿を執筆して下さった各先生方、誠にありがとうございました。また、執筆者の先生方とのご連絡その他の取り纏めをして下さった小塚義高先生、ありがとうございました。数年前に拙稿を寄稿させていただいた際には何を書こうかと随分悩みましたが、この度初めて編集委員のお手伝いで原稿を拝見させていただくと、普段詳しくお話をうかがうことの出来ない先生方のお人柄がとてもよく伝わり、一人一人の顔が見えなくなりつつある弁理士の急増の時代の中で、貴重なツールかも知れないと思えてきました。これからも色々な方々のお話をうかがえるのを楽しみにしております。

(筒井 章子)

☆ ☆ ☆

今日は、10月8日(金曜日)で、最終締切日だ。さっき、須藤先生から電話があり、僕の担当分の原稿がまったく届いてないとのこと。昨日メールしたはずなのに、、、再度メールをし、電話をしたら、今、受信中とのこと。ふー、無事届いてくれ〜。あとは、この編集後記を書き終えて、メールすれば終わりだ。えー、原稿執筆にご協力いただきました先生、ありがとうございました。(よし OK)

以上

(山田 哲也)



